

慶應義塾大学大学院
2018年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 商業学

以下の設問すべてに解答しなさい。

なお、解答の際は設問番号を明示し、1つの設問につき1枚の解答用紙を使用すること。

設問 1 マーケティングの講座が大学にはじめて開設されたのは 20 世紀初頭であるとされる。実践や学問としてのマーケティングが生まれた時代背景を述べなさい。さらに、当時のマーケティング理論の特徴を、現代のそれと比較しつつ論じなさい。

設問 2 広告効果のモデルを 1 つ挙げ、その特徴をまとめなさい。インターネットの普及によって、そのモデルをどのように変更する必要があるかを論じなさい。

設問 3 以下の用語すべてを、それぞれ 5 行以内で説明しなさい。

問 1 サプライ・チェーン(supply chain)

問 2 統合マーケティング・コミュニケーション(integrated marketing communication)

問 3 層化サンプリング(stratified sampling)

問 4 計画購買(planned purchase)と非計画購買(unplanned purchase)

問 5 確率的選択モデル(probabilistic choice model)

慶應義塾大学大学院
2018年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 経営学

以下の設問すべてに答えなさい。

設問1

財の生産における経験曲線・効果 (experience curve/effect) とは何か説明しなさい。また、この効果が存在する時に、どのような競争戦略 (competitive strategy) が企業業績の長期的な向上のために有効か論じなさい。

設問2

アルバート・ハーシュマン (Albert Hirschman) の退出・発言モデル (exit-voice model) とはどのような分析枠組みか、企業統治 (corporate governance) あるいは人的資源管理 (human resource management) の例を用いながら説明しなさい。

設問3

取引費用 (transaction cost) とは何か説明しなさい。また、この概念を用いることで、企業の垂直統合 (vertical integration) をどのように説明できるか、なるべく詳細に論じなさい。

慶應義塾大学大学院
2018年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 会計学

以下の設問1～設問4の中からいずれか2問を選択して答えなさい。(例えば、設問1と設問2、あるいは設問1と設問4など)。なお、解答の際には、設問番号を明記し、1つの設問につき1枚の解答用紙を使用すること。

設問1 証券市場 (security market)、会計情報 (accounting information) および利益の質 (quality of earnings) との関係について、次の問1～問4まで全てに答えなさい。

問1 「利益の質」の用語は多義的である。それを前提に、「営業キャッシュ・フロー (operating cash flow) との近似度が高い利益は、「利益の質」が高い」とされる理由は何かを述べなさい。

問2 (1) 「利益平準化 (income smoothing)」とは、どのようなものを述べなさい。
(2) 「経営者は利益の平準化をしたい」とする仮説がある。なぜなのか、その理由を述べなさい。

問3 棚卸資産 (inventory) の評価方法として後入先出法が許容されていることを前提に、購入価額が時間経過とともに上昇している時、棚卸資産の評価方法を先入先出法 (first-in, first-out method (FIFO)) から後入先出法 (last-in, first-out method (LIFO)) に変更した。会計利益と課税所得が連動しているものとして、「効率的市場仮説 (efficient market hypothesis)」が成立していると、株価に対してどのような影響を及ぼすと考えられるかを想像し、その理由とともに述べなさい。

問4 「経理自由の原則」に関して、「経営者は、会計処理方法の選択や見積方法によって報告利益を決定できる」と解釈することを前提としなさい。

- (1) 経理自由の原則が利益の質を良くするとすれば、どのような条件や理由があるかを述べなさい。
- (2) 経理自由の原則が利益の質を悪くするとすれば、どのような条件や理由があるかを述べなさい。

設問2 市場で売買可能な社債 (marketable bond (debt security)) を発行 (issue) している上場会社 (listed company) を想定しなさい。当該社債の市場価格 (market price) は、市場金利の動向や発行会社の信用リスクの変化 (社債格付によって明示される) などのさまざまな要因で変動している。負債 (debt) の部に計上されている社債の毎期末の評価額について、「期末時点における時価 (市場価格) で評価する方法 (market value method)」で会計処理するか否かをめぐって、会計理論上 (accounting theory)、賛成意見と否定意見 (pros and cons) が存在する。次の問1～問3まで全てに答えなさい。

問1 会計期末に社債を時価評価する方法を採用した場合を想定しなさい。

- (1) 繰越帳簿価額よりも期末時価総額が減少している場合、どのような仕訳 (journaling) になるであろうか。借方と貸方の科目を示し、この仕訳はどのような意味を持つのかを説明しなさい。
- (2) 繰越帳簿価額よりも期末時価総額が増加している場合、どのような仕訳になるであろうか。借方と貸方の科目を示し、この仕訳はどのような意味を持つのかを説明しなさい。

問2 「問1 (1) と (2)」の仕訳およびその意味を前提に、期末時価で評価する会計処理方法に賛成する論拠を、できるだけ多く説明しなさい。

問3 「問1 (1) と (2)」の仕訳およびその意味を前提に、期末時価で評価する会計処理方法に反対する論拠を、できるだけ多く説明しなさい。

設問3 バランススコアカード (balanced scorecard) について次の問1～問5のすべてに答えなさい。

- 問1 バランススコアカードが提唱されるにいたった背景について説明しなさい。
- 問2 バランススコアカードの「balanced」とは何を意味しているかを説明しなさい。
- 問3 戦略マップについて説明しなさい。
- 問4 狭義のバランススコアカードについて、その枠組みと活用の仕方について説明しなさい。
- 問5 広義のバランススコアカードのメリットとデメリットを説明しなさい。

設問4 次の問1～問3のすべてに答えなさい。

問1 次の用語についてそれぞれ説明しなさい。

- a 機会原価 (opportunity cost) b 埋没原価 (sunk cost)
- c 直接費 (direct cost) と間接費 (indirect cost)
- d マネジド・コスト (managed cost) とコミテッド・コスト (committed cost)

問2 A社は単品のみの製造・販売をしている会社である。売価は1個あたり6,000円、材料費は1個あたり2,500円である。また毎月、固定費として人件費が600万円、固定製造原価が390万円かかる。製品の売上げ個数はほぼ毎月変わらず6,000個である。

- (1) 製品1個当たり利益を答えなさい。
- (2) B社で製品1個が不良品となり、販売できなくなった。B社はこのとき生産能力に余裕があった。B社はいくらの損失となったか答えなさい。
- (3) 上記(2)の問題で、B社の生産能力に余裕がない場合は、B社はいくらの損失を被ったかを答えなさい。

問3 みなと工業では、単一製品の製造販売を行っている。みなと工業では生産したものはすべて販売できる。製品の販売単価は1個あたり400円、単位あたり変動費は200円、固定費総額は10万円である。

- (1) みなと工業の現在の損益分岐点 (break-even point) の売上および販売量をそれぞれ答えなさい。
- (2) 現在の状況について、利益図表を作成しなさい。

ただし利益図表には必要な項目、各軸の示す項目と重要な数値も明記すること。

- (3) みなと工業では、現在製造販売数量が600個である。しかし、利益額を2.5倍にすることを検討している。このときどのようにして利益を上げることができるか。可能な策を具体的な数値を挙げて説明しなさい。ただし、新たな設備投資は考えていない。

慶應義塾大学大学院
2018年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 ミクロ経済学

<金融・証券論> <保険論> <交通・公共政策・産業組織論>
<計量経済学> <国際経済学> <産業史・経営史> <産業関係論>

下記の設問1、設問2、設問3にすべて解答しなさい。1つの設問に1枚の解答用紙を使用すること。解答の際には設問番号および問番号を明記すること。

設問1 以下の問1、問2にすべて答えなさい。

問1 以下の(1)、(2)にすべて答えなさい。

- (1) レモン市場(Lemon market)の問題に関して、3行以上5行以内で説明しなさい。
- (2) この問題に対する解決策を3つ挙げ、それぞれについて1行以上2行以内で説明しなさい。

問2 労働供給(labor supply)に関して考えよう。賃金率(wage rate)が上昇した結果、個人が最適とする労働時間が減少する場合に関して、図を用いて説明しなさい。ただし、図の中に、所得と余暇の代替効果(substitution effect)と所得効果(income effect)を示し、その相対的な大きさに関しても論じなさい。図以外の部分は3行以上6行以内で説明しなさい。

設問2 ある小国について、貿易保護政策(trade protection policy)の影響を考えよう。自由貿易(free trade)の下、ある財の国内価格は、その財の世界市場における価格と等しくなるとする。この財に関して、以下の問にすべて答えなさい。

問1 この財に関税(tariff)が課されたあと、財の輸入が減少した。その変化に関して、図を用いて説明しなさい。ただし、財の国内需要曲線(domestic demand curve)、国内供給曲線(domestic supply curve)、世界価格(world price)、国内価格(domestic price)、関税、そして輸入量を明記しなさい。図以外の部分は3行以上6行以内で説明しなさい。

問2 関税による総余剰(total surplus)の変化について、図を用いて説明しなさい。その際、消費者余剰(consumer surplus)、生産者余剰(producer surplus)、政府収入(government revenue)について述べなさい。図以外の部分は3行以上6行以内で説明しなさい。

設問3 以下の問1、問2にすべて答えなさい。

問1 ある社会には2人の消費者(consumer)だけが存在しているとしよう。各消費者の公共財(public goods)に対する需要曲線(demand curve)は、それぞれ $P_1=8-Q_1$ と $P_2=16-3Q_2$ であるとしよう。公共財の平均費用(=限界費用)は4であるとする。

- (1) パレート最適(Pareto optimal)となる公共財の最適供給量はいくらか。
- (2) このとき、消費者余剰(consumer surplus)はいくらか。
- (3) この財が私的財である場合、消費者余剰の合計はいくらか。

問2 次のような賭けを考えよう。コイン(fair coin)を投げて、 i 回目に初めて表が出たら賞金として 2^i 円もらえるが、表(head)が出るまで賭けは無限(infinite)に続くというルールとする。たとえば、1回目に表が出れば2円もらって賭けは終了、1回目が裏(tail)で2回目が表なら $2^2=2 \times 2=4$ 円もらって賭けは終了、1、2回目が裏で3回目が表なら $2^3=2 \times 2 \times 2=8$ 円もらって賭けは終了となる。コイン投げは相互に独立な事象であり、表が出る確率は常に $1/2$ とする。

- (1) 賭けに参加することで得られる賞金の期待値(expected value)を求めよ。
- (2) この賭けの賞金から得られる効用は $\ln(\text{賞金})$ としよう。このとき、賭けから得られる期待効用(expected utility)は何か。
- (3) この賭けに参加するには、参加料として P 円を支払わなければならない。 P が何円以下であれば賭けに参加するかを求めなさい。